

第4回総合計画策定審議会 議事録

日 時：平成26年4月11日

場 所：中央公民館第1会議室

出席者：青野光委員、井川一郎委員、今井健三委員、大森幸子委員、奥村やよい委員、笹木篤委員、重松安晴委員、田頭孝志委員、武智英一委員、武智英明委員、橘慶子委員、玉井彰委員、西村道子委員、橋本千春委員、松本良太会長、向井桂委員

欠席者：山崎由紀子委員

事務局（坪内・小笠原・岡井・木曾）

1 開会

2 議事

事務局自己紹介

(1) 市長公約に係る取組みについて

事務局説明

(会長)

事前に配付をしており、確認をしてもらったと思うが、意見はないか。

(委員)

ざっとしか見てないが、1、2点追加したいことがあるので、まとめてメールか何かで送りたい。あと一週間ぐらいほしいが、それで良いか。

(事務局)

内容を追記してもらうのは結構なので、送ってもらえたら、その分を含めて市長のほうに報告したいと思っている。

(会長)

ほかにないか。

(委員)

協働（住民参加）中の赤字で「若干の謝金を出すように市民等議会」とあるのは、討議会の討論の討の字である。これは三鷹市にその事例がある。これまでも各種審議会があるが、有識者であるとか、いろいろな形で同じような方が出て来ている。そうではなく、裁判員方式で抽選によって出てもらうという方式で新たな人材を発掘する。そうでないと、行政と市民が協働するといっても、結局同じ人に割り振るだけということになりがちであるから、それを裁判員方式によって選出した「市民討議会」という形に書きかえてももらえるとありがたい。

(事務局)

それでは、その点訂正を行いたい。

(委員)

今まで討議したことについて、市から送ってきた資料を読ませてもらった

が、湊町の埋立地の利用について、私が常に言っていることを分かってもらえたなと感心している。

伊予市は常に小さく固まろうとしている。もっとグローバルな考え方でやってほしい。とにかくアンテナを高く上げてくれということをしょっちゅう言っている。例えば具体的に言えば伊予農の食品化学部。伊予市がテレビに出ていて、どこなのかと思ったら伊予農のバザーのお菓子のことだった。ほかにも愛大とか。

ほかには、松前が非常にトップセールスに力を入れていうということ。助役さんが二人いると聞いたが、しょっちゅう外へ出て、東京など訪問している。批判も出ているようだが、トップセールスというのは大事なことである。

それと、ウェルピア伊予をどうするのかは決まったのか。私はあのやり方に反対である。市長は恐らく苦渋の選択だったと思う。もともとは恐らく文化の森に、図書館をという考えがあったのだと思う。資料を見たら、文化、文化というのがあるって、保健なんて一言もない。市長が右に向いたら、市の職員はもうみんな右を向かないといけない。そこで、市の仕事をしていた人も全部右向くことになる。

これは個人的な意見なので記録はとってもらったら困るが、私の家でも、家内は病気を10ぐらい持っている。私も4つ持っている。そして、がんも持っている。だから、医者と仲よくし、病気と仲よく生活している。私と同じ小さな部落でも4、50軒ほどの中で、もう空き家が5軒もある。そういう実情のこの伊予市。双海町や中山へ行ったら、もっと厳しいはずである。

そういう厳しい実情を本当に知っているのか知らないが、静岡や愛知の辺りは山のほうにもいろいろな工場がある豊かな地方である。だから、あのような施設が必要である。大阪や静岡は、北海道の人が鹿児島へ行く途中に寄る。鹿児島の人や東京へ行く途中に寄る。そういう地理的有利な条件がある。

ウェルピア伊予ほどの施設は、私が四国4県で見てもほかにはない。あれだけの施設は伊予市の顔である。だから、しっかりと育てていく。これはもう伊予市のシンボルマークだと思う。

目先だけ考えず長い目で、松山市の近くでこれだけの交通の条件のいいところであるから「ふれあいの都市づくり」をと提案した。

そういうところで松山の近くだから松山の人をとにかく引き入れるような政策をしないとけない。砥部でも東温でもみんな松山の施設を引っ張り込もうとしている。松前もそうだ。そういう緊張感というか、競争意識というか。昔、郡中は伊予郡の中心だった。郡中といたらみんな一目置いていた。それが今、後塵を拝するようなことになっているのではないか。そのあたり十分検討して、伊予市がお金を余り使わずに、県をもっと利用すればいいと思う。

伊予市の話し合いを見たら、県の施設の話は全然出てこない。森林公園にしても漁業センターにしても、それから五色姫の海水浴場。ああいうところは私らが県外の人に紹介するし、若い人だったら森林公園を紹介する。ウェ

ルピア伊予は伊予市の宝であり、愛媛県の宝である。それをもっと有効にみんなが利用しないといけない。伊予市は、市外の人をウェルピア伊予に持ってくるような方策を考えないといけない。そのあたり、もっと検討してもらいたい。

(会長)

既に議事2番目のところに入っているが、まず前段の市長公約に係る取組みについては、ほかには意見はないか。

(会長)

少し高いところへアンテナを張って市として取り組むことが大事ではないかという提案であったと思う。そういうことで報告してもらおうということによろしいか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

(2) 当面の重要施策の推進に係る取組みについて

(会長)

それでは議事2に入らせてもらう。

当面の重要施策の推進に係る取組みについて、何か意見はないか。

(委員)

今の意見に反対する訳ではないが、確かに良い施設であるが、問題は耐震構造になってないということで、建てかえらなったらどれだけの予算が必要で費用対効果がどうなのかと。

それから、残したい気持ちは私もあるが、今市長が言っているのは、医療センターというのは県の調整区域を解いていくための施策の一つとして何かを張りつけなければいけないという大きな流れの中での話しで、何もあそこを壊してそのままにするのではなく、何かに使おうとみんなでこれから考えていけばよいと思う。

今委員が言われた市長が何もなければ無くすということではなく、みんながこれから考えていけばいいことで、ただお金の問題だけである。あそこで、今の市役所をつくり直すといったら、多分析が違うと思う。ただ、耐震構造の問題があり、直さないと今からは使えないということです。

(委員)

事務局、議事2のことについて説明を求める。

(事務局)

重要施策の推進に係る取組みについては、前回の審議会のときにも意見をもらったところだが、先般事前に送付したとおり、昨年10月から半年近くかけて、職員16名が4つの重要施策に関する研究調査を行ってきた。

その結果について、3月17日に中間報告として市長に提出されたので、その報告書を皆様に送らせてもらった。これは、この方向で行くというものではない。職員レベルでこのようなことが考えられるのではないかという提案であるので、これも踏まえて、委員からも意見、提言をもらえたらと思う。

(会長)

意見はないか。

(委員)

今、耐震構造を何とかしないと利用ができないというような法的なことは分からない。だから、使える間は使ってもらいたいということと、継続は力なりということをおぼえてははいけないということである。

(委員)

行政施策に対して、あるいは市長の公約に対してどういう議論をしていくのか、分からない点がひとつある。

それから、今分科会の話があったが、この資料の中で初めてウエルピアの財務状況が出てきている。財務状況は非常に重要なことだと思うので、ウエルピアに関して教えてもらえたらと思う。その上で議論をもっと掘り下げてやるのか、あるいはもう終わりにするのか、その辺りはその後で聞きたい。

(事務局)

この重要施策について意見・提言いただいたものについても、市長公約と同様に、一つのものに取りまとめて、プロジェクト会議にも反映させるとともに、市長にも報告をしたいと考えている。

ただ、前回の審議会においては、余り詳細な資料をお配りできてなかったため、今回その参考資料ということで職員の間報告を送らせてもらった。

ウエルピアについては、第2分科会の資料になるが、私も詳しく説明できるほどの材料を用意していないので、資料をみてもらうしか言えない。財政状況については、2ページに掲載されている。

現在の位置づけ、検討経過等掲載した後、最終的な職員の考えとしては、第6になる。16ページから最終ページにかけてが、職員の提案になるが、この方向がベストであるという構想は現状見つかっていない。将来構想案その1からその8としてたくさんの方向性を示しており、委員からいろいろ意見をいただく中、費用の面も含めてどの方向がベストなのかということを慎重に検討していきたいと考えている。

(委員)

今の事業が成り立っているのか成り立っていないのかということをお判断することは非常に重要な要素で、しかもそれが基礎になると思う。

今ここにあらわれているのが市側の財務状況で、今ファン・スペース株式会社が運営していると思うが、その収支もできれば見せてほしいし、それをもって今度は耐震改修なり、あるいは目的に向かって何らかの改修をするとすると、最初の投資が幾らかかかって、それからどれぐらい事業の経費がかかるというようなことの収支予測が出てくると思う。

いくつか案が出ているが、それぞれに収支の予測をした上で、これなら成り立つ、成り立たないということは、具体的にプラスマイナス、二割の誤差はあったとしてもいけるのではないかと思う。そういうことをこのテーブルに乗せていけば、いろいろと建設的な意見が交わせるのではないかと思

う。

(事務局)

ウェルピアについての収支の状況については、所管部署で確認をして提出させてもらいたいと思うが、本施設については、指定管理料を市から払わずに独立採算で行っており、収入のうち一部は市の会計に繰り入れることになっている。2ページにあるように諸収入で350万円程度返ってきているという状況であるが、これは宴会であるとかスポーツ施設の運営上のことであり、実際はこれ以外にゴルフ場のネットの張り替えであるとか、テニスのコートを整備であるとかには、多額の経費がかかっているの、ファン・スペースの収支の状況に加え市の繰り入れで年間どのくらいの経費がかかっているのかということもあわせて提示をさせてもらおう。

(委員)

審議会の進め方について意見をさせてもらおう。

第4回目の審議会であるが、この内容は第3回目にもう既にやっており、2回重複して審議をしているという状況になっている。

ここは審議会であり、審議をする場のはずであるから、市役所の内部でこういう委員会、分科会があるのであれば、分科会から出された意見を待ってからすべきではなかったかと思う。

事務局、スタッフが総入れかえということではあるが、重複したというようないないよう気をつけてもらいたい。

(会長)

審議会の今後のスケジュールについてはまた議事3番目で説明があると思うが、今日の議題は当面の重要課題に対し意見をもらいたいということなので、事務局から提案があったように、中間報告書について意見をいただきたい。

(委員)

いろいろな資料を提示してもらってありがたい。

非常に多岐にわたっているいろんな分野で検討されていることに対して敬意を表する。

その中で、1つ確認であるが、今審議になっているウェルピアの中間報告の中で、将来構想その1からその8までの数字は優先順位と見てよいのか。

(事務局)

これは優先順位ではない。分科会の意見を羅列しているものであり、1の優先順位が他の構想より上ということではない。いろいろなパターンが考えられるという提案である。

(委員)

今まで3回審議会が開催され、委員の中でもいろんな議論が出ているが、職員間でも非常に多岐に渡って十分な検討されているようなので、そういう資料があれば先にもらえればありがたい。

(会長)

ほかに中間報告書について意見はないか。

(委員)

歳入総額では約5,000万円弱。そして、4,000万円、4,500万円と市から支出している。市とファン・スペースとはたしか10年の使用期限での入札であったと思うが。あるときに市長に何で市がそれだけの金額を出さないといけな
いのかと聞いたら、ファン・スペースがしてくれないからという言い方であった。

今伊予市は意外とお金を出す方の指定管理が多いと感じている。指定管理者について
の入札原理が働いてないからこういうことがまだまだまかり通っているのではないかと思
う。

市の職員も、歳入と歳出を考えて、指定業者の入札の項目を改めていかないと、事業費の1割も戻ってこないような事業を起こしていたのでは、普通の民間の会社だったら潰れてしまう。そういうところを市の職員もよく考えて、入札等々に携わってもらえたら分かってくると思う。今後、第三セクターも指定管理者になると思われるが、そういった点をしっかり検討してほしい。

(会長)

ほかに意見はないか。

(委員)

中山高校のことであるが、考えてみたら、地元の人
の意見と同じであった。あれを伊予市が所有して利用するのはちょっと無理であり、県へ返すのがベターではないかというのが私の考えである。

(会長)

中山高校については県に返したほうがいいではないかという意見であるが、ほかに意見はないか。

(委員)

今の件はよく地元
の人の意見を聞いて、検討してほしいと思う。私たちがどんなに言ってみたって、地元の人から欲しいと言われれば、残さなければならないと感じている。

ただ、今言われたように、お
金を出すだけで何もならないのであれば、このような理由で止めたほうが良いという補足意見を付けて審議会の答申とすればよいと思う。

(委員)

資料に地元
の人の意見は書いていた。私は県に一応返して、それをうまく無償で使わせてもらうような話がいいのではと思う。

(委員)

中山高校
のことで、この段階で言うようになるとは思ってなかったが、一応資料は配ってもらっている
ので、これの維持に係る費用とかは抜きにして言わせてもらいたい。中山に人が集まるよ
うな仕掛けが要るのではないかということであれば、古本図書館。古本というのは、今はやりの古本店に持っ

ていくと大半は突き返される。どんな内容の良い本でも見かけが悪い、少し汚れている、それだけで商品価値がないので返されてしまう。この前1,200冊ほど処分しようとしたら、半分は突き返された。

それでは、内容は良いが見かけは悪いという本を集めて中山にしかないものをつくることは可能ではないかと。合併しない宣言をやった福島県矢祭町で「もったいない図書館」というものをつくろうとしたら、全国から3,000万冊集まったというような事例もある。

そこまで全国発信しないまでも、中山に人がちょっと行ってみたいくなるような施設をつくるということが必要なのではないか。

もう一つは、企業家やNPOの拠点施設、また芸術家のアトリエである。そのようなものに使えないか。

特に最後の提案について、中山町というところは少し閉鎖空間なのではないのかなと感じている。中山間地域にありがちな新しい人に対して見る目が少し違和感、異物を見るようなところがあるのではないかなと。聞き及ぶところによると、あの人は昭和になってから移ってきた人だというような言い方、江戸時代から住んでいないといけないのではないかなというような、閉鎖空間を形成しているのではないのかなと。

ある人から聞いた話だが、町長がいろいろな人を中山町に招聘したけれども、大半が出て行ってしまった。中山の気風に合わなかったと。そういう意味では中山町を本当に活性化しようと思ったら、新しい人を受け入れるような雰囲気形成しないと、本当に人口が激減してしまうのではないかな。双海町よりも厳しい現実が待っていると思う。

そういう意味では、もし経費面で可能であれば、耐震性のあるところを利用して、新たな風を中山町に吹き込めるようなものをつくればいいのではないかなと思う。

これはかかる費用との相談ではあるが、古本図書館に関して言えば、もう善意で送ってもらうと、あとは本棚だけの問題で、特に貸し借り等の管理は必要ない。群馬県太田市の市役所に行った経験があるが、そこでは市民が自分でノートをつけて貸し出したり返したりと、市民を信頼した運営をしていた。古本図書館であれば経費がゼロなので、失われる価値が金銭的にはない訳であり、そのように極力経費を節減した運営ができるものをつくる方がいいのではないかなと思う。

(委員)

今言われた有効活用の案は、とてもいいと思う。

特に最後の若者などが集まる町というので、1つ思ったのは、伊予市は、とにかく自然が多く、動物もものすごく多い。私が引っ越ししてから5年経つが、猿、イノシシ、タヌキ、またイタチもいて毎日のように出てくる。大平の辺りでも十分見ることができる。なかなかそんな動物と触れ合える機会がないのであれば、ちょっとしたスペースでいいので、伊予市にはこのような動物がいると紹介したり触れ合えたりすると、子供と親子連れで行きやす

い施設になるのではないかと思う。

(会長)

中山高校のいろいろな意見があったが、ほかにはないか。

(委員)

県に返すというのはグッドアイデアだと思うし、古本図書館という提案もおもしろいと思う。

ただ、今から新しい事業をあの場所で展開するというのは、人口減少、経済縮小の社会で一般の企業でも難しいのに、非常に困難なことだと思う。これはウェルピアでも同じだと思うが、できれば今既存にある何らかの業態のアネクスの関連させて、駐車場でもいいし、農産物を売る支所として使うとか、既存の施設を利用して何かできないのかなど。そういう切り口があってもいいのではないかと思う。

(委員)

私は中山で生まれた。父が普及員をしていたので、愛媛県下東予、中予、南予回ったが、遊栗館には祖父の茶室もある。クリで名をなした人だったらいい。いまだクリは買ったことがなく毎年もらって食べており、自分もとりに行っている。

中山の高校は、新しくできた高校である。当初は、キノコ何かも特殊な科目ですごく名をはせていたが、キノコもシイタケも国外産の分が入ってきてから発展しなくなり、生徒もいなくなってしまった。昔は中山の子も松山には行かず、中山高校へ行くという感じだったが、今入試の志願者数を見ても1人、2人落ちるかなというような状況になってしまった。

中山に集まるのは栗まつりのときだけ。そのときはすごい人らしいが、そういったときにだけ駐車場として使うのは、何か寂しい気がする。中山はすごくいいところなので、動物の施設を作るのもいいと思う。新たに施設をつくるとなると大変であるが、いったん県に戻してみて、県が嫌な顔をするようであれば、別の方向を考えるということで検討してはどうかと思う。

(委員)

この資料を見る限りでは、中山高校を更地にするには結構お金がかかるように書かれている。実際どの程度更地するのにかかるのか、教えてもらいたい。

中山町は、今伊予市と合併して双海とも一緒になっているが、旧中山町では一番の一等地である。場所的には非常にいいところなので、県に戻すのも一つの一案で、予算との絡み、施設との絡みなど考えて上手に駆け引きをしていかないといけない。その場合、ある程度絵を描いてから対応しないと、県とは話ができませんので、取り壊しに余りかからないのであれば、まずは更地にした後、地域住民とキャッチボールしながら、いろんな活用方法を検討するべきであると思う。駐車場としては一部活用できればそれでいいのでは。豊岡分校については、私の知っている分野では、農工商連携の国の事業で廃校を利用しながらシイタケ栽培をしている所もあるのだが同様にしてはどう

か。

伊予の農業を考えるとときには一番大事なのはやっぱり入口・出口。県、国などいろんな事業等を絡めながら、出口をまず考えてから仕掛けないとけない。農林の関係でもある程度出口がある。久万高原町の柳谷地区において、電力開発公団の補助金を受けて、廃校利用した野菜工場を作っている。出口をしっかりと考えると、豊岡分校あたりは利活用ができるのではないか。

運動場も修繕が安く済むのであれば、そういった野菜工場も可能。西予市に食品加工場が来るようになってきているが、もともと食品加工場があった敷地に食品工場が誘致された。食品加工にしても、売り先がきっちりとうわかった上で、いろんなプロセスを考えて参加を求めている。地域の雇用促進にもなっている。中山町の場合もそのようなことを考えながら、雇用促進も考える中で、トップセールスでいろんなことを提示しながらやっていかないと。

特に中山は思い入れがあるから、何とかあそこだけは維持をしていきたい。取り壊しにどの程度かかるか、そのあたり教えてもらったらと思う。

(事務局)

取り壊しの経費については、中間報告の中11ページのところに、概算で1億3,000万円程度かかるのではないかという試算をしている。

この費用については、特例債、除却のための特例債が活用できるのであれば充当率75%で、市の持ち出しが3,000万円から4,000万円の間ぐらいで済むのではないかと考えている。

市の一般財源で全て賄うということは難しいので、建物も含めて市に無償で県から譲渡を受けた場合に、この特例債を使って、例えば更地にして新しい事業を展開するといったことも可能かと思う。

(委員)

その資料の中で確認したいのは、特例債はいつまで施行されるのか。

(事務局)

この特例債については、今年度から始まっている。

(委員)

とすると今後3年間か。

(事務局)

お見込みのとおり。今決断すれば当然適用の対象になるかと思うが、県とどのような話になるかによると思われる。

(委員)

私も中山町に住んでいる。今現在、高校跡地の件につきましては、中山の中で町会とか蚕保存会とか、いろんな各種団体の方、議員も含めて検討会を立ち上げ、検討した上で、市や県にお願いする方向で進めている状況だと思う。

今上がっていた話の中に、駐車場問題があったが、農業総合センターという450名程度収容できる立派な公会堂ができています。あそこも土日については小学校、中学校のグラウンドを駐車場として使っているが、平日は貸し出す

ための駐車場の確保ができない。だから、そういうときのための駐車場にも充てて、より利用率を上げたいという狙いもある。また栗まつりの際も、いろんなところの駐車場を使っている関係で、相当な渋滞があり、国道に大変迷惑をかけた状況になっている状況もあって、あそこ一画が駐車場に使えれば、混雑の緩和にもなるのではないかと考えている。

多方面の考え方をもとに検討をし、市、県に提案をしていきたいと考えている。この資料の中の何点かになってしまうのではないかなと思うが、有効な使用ができるよう進めてもらいたいので、協力をお願いしたい。

(委員)

一番思ったのは、地元の方の熱意だと思う。特例債を使うのは反対である。そうでなくても今特例債が多い。市役所から始まって、総合保健福祉センターとか。今の建物を利用する形であれば、動物もいいでしょう、また駐車場もいいでしょう。ただ、駐車場だけではもったいないので、地元でどれだけのことができるか、農業の施設としてどれだけ熱意を持ってできるか、他から来るという考え方はまず捨てて、中山町の方がその施設をどう利用しようかという熱意が出てきたら、十分それでやっていけるのでは。そういうように地元の方の熱意で決めていけばいいのではないかな。

我々も応援はするが、最終的には地元の方がやらなかったら、中山町では不可能ではないかなと思う。

(会長)

中山高校についての提案は以上でよろしいか。

それでは、伊予市の主要施策課題について、提案をいただきたい。

(委員)

週刊東洋経済の最近の記事を抜粋して資料にしている。そして女子が消えたという、人口減に直面する千葉県銚子市の話である。ここはある程度の町であったが、かなりな人口減少に見舞われた。市が慌てて、原因を調査したら、周辺地域が子育て支援に非常に手厚い施策を行い、女性がいなくなったということで、女性に見捨てられた町であったということである。

これは伊予市においても言えることで、今や若い夫婦がどこへ家を建てるかといったときに、選択してもらうためには、女性の支持がないとだめで、とにかく若い女性がこの町で一生過ごしたいというようなことが言えるためには、子育て支援を市政の最優先課題にするということが是非とも必要だと思う。

結婚する人は減っているから、3人、4人目を産み、過ごしやすい町だなと言えるような条件整備。そのためには医療費を中学生まで無料にする。それから、子育てをしているお母さんが仕事のできる環境、例えば土、日、祝日保育、また短期入院が可能な子供病院のようなものまで。そのためには予算をこちらのほうに振り向けるぐらいの政治決断が必要だと思う。

この次の住民への過剰サービスをやめて、持続可能性の乏しいものについては止めて、新規の事業を起さずに、こちらのほうへ持ってくる。

これは福祉の問題だと捉えられがちだが、産業政策だというように位置づけてほしい面もある。新居浜市に最近セブニーイレブンの食品加工工場ができた。そのときに、パートの時給が1,000円になった。このような報道があった。事業主にとっては、パートの時給が1,000円になると雇えない。ということは、企業誘致が大切だと言っている人も、時給1,000円の町に企業が新たに進出するかといえば、しないと思うし、新居浜市はその時点でもう後の企業の進出が難しくなっている。

そのためには土、日、祝日に勤務しないといけないようなサービス系の企業が進出して来る訳で、それに対応する労働力がこの地域になければ進出して来ることができない。そのようなことを考えると、お母さん方が土、日、祝日も出られるよう支援していく構えが必要になると思う。

もちろん企業の側にも子育て支援を応援することが必要だと思うが、行政の側の考え方としては、この伊予市で暮らせば就職もできる。男性の正社員も非常に難しい時代になっている中、伊予市は、旦那が年収200万円、奥さんが年収100万円、年収300万円で楽しく暮らせる町というのを1つ目標値に置いて考えていく必要があるのではないかと。

そういう意味で、子育てを最優先課題にする。伊予市では毎年250~260人生まれているが、この数字は、昔の郡中小学校の1学年の人数である。北山崎小学校はその3分の2ぐらいあった。例えば250人掛ける80年を計算すると2万人、300人で80と計算して2万4,000人、300とか350とかという数字を念頭に置かないと先細りになってしまう。

待機児童がゼロだと言われているが、園に預けられないのでしばらく家にいるという人も結構いる。そういう意味では待機児童として表にあらわれない数字がかなりある。それを労働力として確保しないといけない状況になっているということで、子育て支援は産業政策の面もあるということを知ってほしいと思う。

それと、行政と市民との協働ということが言われているが、同じようなメンバー、無作為抽出での市民討議会というものを是非とも今度の総合計画の中に入れてほしいと思う。

この場合、三鷹市の例で言うと、裁判員制度のように出なければならないのではなく、了承してもらえる人に出してもらおう。そうすると、1,000人抽出して100人とか150人とかの数字が出ると思う。そういう方に各部会に分かれていろんなことを討議してもらおう。その中で自覚と責任を持った住民自治というものが展望できるのではないかと。そしてそうすれば、様々な人が行政とかかわり合いを持っていろいろなことをやってみようか、あるいはNPOでもやってみようか、ボランティアやってみようかというような形で、真の意味での行政と住民との協働が可能になるのではないかと思う。

また、周辺地域の活性化、これは市長も言っていたが、ここ20年、30年の中で、各地域の小さな商店はほぼ絶滅したというぐらいのところへ来ている。確かに市場原理で淘汰されたと言えばそれまでではあるが、コミュニティの

機能を担っていた。そういうコミュニティの機能が今こそ必要になってきており、半径約300メートル、徒歩5、6分のところで特に高齢の方が集まれるような場所を確保しないとイケない。

そのためには、そこに商業的な機能も一部持たせながら運営していく必要がある。定価で買うけれども、定価で買えば利益率が、粗利益率が30%ぐらい出る。それで月にその地域の方が50万円買ってもらえれば20万円か15万円の利益がでるのであれば、そこに有償ボランティアであったり、パートであったり地域の方が入ってきて、いつでもそこで話し合いの場が持て、情報交換もできる。そういう形でその地域が活性化する基盤ができると思う。

例えば一例として、集会所を常時開設のコミュニティ施設にする。若干改装すればできる話で、台所もあることから、そこでコミュニティカフェであったりコミュニティレストランであったり、そういったものも可能になるのではないか。

全地域でやるというよりも、まずはモデル地域を2、3、決めて、その成果を見ながら全域に発展させていければいいのではないかと思う。そういう形での周辺地域の活性化も必要ではないかと思う。

(会長)

今の提案について何か意見はないか。

(委員)

いろいろな意見を聞かされてうなづくことばかりであるが、範囲が広すぎて、なかなか意見が出しにくい。

私の考えとしては、やはり人口の問題である。お年寄りと子供を第一義にするというような計画を、20年、30年という長いスパンで。伊予市ある限りと言ってもいいぐらい壮大な目標を掲げてやっていってほしい。

昔、国が定住自立圏構想とかやっていたが、やはり一極集中型になっている。近年、外国へ企業が出ていくというような状況の中で、伊予市が、松前や砥部とは違う色合いを出していくということについて、十分考えていかないとイケないと思う。

1つ、ウェルピアの用途で、5番目にあった、全部市街化区域にして売ってしまったらいいという提案。これは前市長がよく言っていた。第三セクターとかたくさん持っていたら自治体がしゃぶられてしまうと。

それは言えるが、8億円ものお金を出して伊予市は広いい建物、広い空間を取得したのに、売ってしまうというのも味がない方法であると思う。まだ決まった訳ではないが、市街化区域の拡大というのはついてくると思う。またそれは定住化構想になってくると思う。

前の回も言ったが、伊予市が市街化区域を拡大していくことは大事なことだと思うが、その前に新川あたりの道路、水道をきちんとやってから外に向けて進めていくべきだと思う。

下水道審議会の際、当面、八倉の方までは下水はつかないと言われたが、そのようなところに住んでいても伊予市のことを思うとそのような考えが湧

いてくる。

(委員)

人口減少、経済縮小の中で大事なことは、やっぱり固まって住むべきで、ばらばらになって住んでいては町が成り立たないということ。また既存の施設や既存のコミュニティを磨いていくという作業、新たに事業を起こしたり新たに人の輪をつくったりするのではなく、今あるものを磨いていくという、資本が既にあるものを資産化していくという作業が今までおろそかにされていたので、それが一番重要だと思う。

さまざまな概念が錯綜して紛らわしくなっているように思う。自分なりに整理した形でお話ししたいことは、市街区域と市街化調整区域の問題です。これは道路も同じことで、もともと市街化調整というのは、まちが外に無秩序に広がる、スクロールすることを避けるために設けた白地地域である。これは中間報告の中にもきっちりそういう意識がなされている。

固まって住むという必要性が出てきたのは、人口減少が露骨にあらわれてきて初めて自覚をしている訳で、本来ならばもう35年ほど前にはその兆候が出ていたので、その時点で何か策を打っておくべきではあったが、今からでもまだ遅くはない。

人口減少で市街化区域を広げれば、当然ながらイージーな形で町が広がる。郊外の方が宅地開発をしやすいから。そうすると、町の中はどんどん寂れる。

また、これは道路も同じと言ったのは、町の中心部にある道路が町の発展に伴って混雑し始めて渋滞が起り、これではまずいということで外側にバイパス道路を作った。本来ならば町の中心部から離れてバイパス道路を作り、そこは商業開発規制しなければならぬ。なぜかというと、通過交通道路がもたらすものには、交通事故・排気ガス・騒音・コミュニティの分断、という弊害があることを海外では認識されているからだ。さらに美観を損ねる、という問題もある。このことが日本ではほとんど意識されていない。海外では、通過交通道路が町の中心部の活性化を阻害するという感覚があるのでバイパスを作っても商業開発しないが、日本の場合は中心部のすぐ近くにバイパスを作り小業開発してしまうから、町の中心が移動してしまう。そこで信号機ひとつで混雑を回避しようとするから、それもできなくなって、またさらに外に道路をつくる、これが今の56号である。

しかし、また商業がへばりつくから、その時点では不動産が売れて建設工事が進んで税金が入る。いろんなことが起こって、利益を享受する人が一部には出てくるが、町全体としてはマイナスの方向に進んでいく。

それと同じで、市街化調整というのも、無制限にスクロールすることを抑えるための最低限の方法であったが、実際抜け道がいっぱいあって、病院ができ、大学ができ、工場ができるということで、市街化調整の機能がなくなって、そこで全国的にも市街化調整区域を外し市街化区域にしようとする本末転倒なことになっている。

今現にこの縮小社会においては、むしろ市街化調整区域は規制を高めて、

今そこにいる人たちだけを大切に守る。小部落、小地域の中心地というのは既存権を持っている人だから、その人たちの職をも含めて中心機能を高めるという、そういう方向が一番大事なことだと思う。

ウェルピアも市街化区域化すればうまくいくのか。決してそんなことはないと思う。市街化区域にすることが成功の秘訣になるということとは切り離して考えたほうがいいのではないか。

それともう一つ、農村地の後継者がなかなか成り立たなくて空き家が増えているという点、これも第4分科会の中間報告に出ていたが、考え方としてはすばらしいが、ここでも後継者を認定する、後継者不足を補うことと市街化調整区域を取っ払うことは別問題なのに混在してしまっている。

後継者が不足したから市街化区域にすればいいというような話ではない。むしろ市街化調整区域のあり方をどうするか。居住者がスプロールしないことを大前提にした上で、どういう区域化をするかということがまず大きな問題としてあって、それでこの箇所はどうするか、この箇所はどうするか、それは区域の生かし方だと思う。その辺を取り違えないようにしてほしいと思う。

(会長)

ほかには意見はないか。

(委員)

私も以前、医療費無料化の年齢制限を小学生から中学生に引き上げて、人口増加を図るには若い世代の方を伊予市に引っ張ってあげればいいのではないかと考えた。その時は、他でしていないのに何ですか、整合性がないというのが市側の答えだった。

しかし、現実的にもう年間300人、400人の人口減である。これを踏まえ本当に若い世代を伊予市に呼んでこようと思えば、先ほど言ったように、我々の時代の子供より今の子供のほうが少し虚弱体質の子供が多いと見受けられるので医療の問題は重要である。

子供を増やすのであればそのような施策は大事であると思ったが、その当時何ら答えをもらえなかったのが現実だ。今3万8,000人の人口に減ってしまった。

伊予市が公共下水道に取り組み、今まで50億円という金額は入れている現状である。今伊予市では上吾川でも3地域は、戸数が少ないため、公共下水道はできていない。恐らく今後5年、10年は無理であるということだが、これからもつなぐ戸数が少なければ、費用対効果を考えると、市町村型の合併処理浄化槽でやっていったほうが、市のお金も個人の負担も少なく済むと思っている。

国道より西に2万5,000から2万8,000の方が住んでいる。伊予市には本当にいびつな道路が多い。新川でも伊予農から大谷川までの道ができれば非常に有効な道路になったと思うが、先日とうとう造成地になってしまった。

市では考えていただけで、ただ1つだけ家があっただけで、何ら手を打た

なかった。もっと本気で市が考えていけば、良いアクセスができたと感じている。策定審議会等々も含めて、青写真は結構組んでいるが、絵に描いた餅、何ら進展できない。空港アクセス道路しかり、今のしおき公園ができたときにも、本来は湊町に埋立地ができ、そこに公園をつくりますと言っているのに、あそこへ天皇陛下が来るからつくるのだと。そういったところろ施策が変わること自体、私たち市民ももっと監視しなければならなかったのではないかと感じている。

皆が1票を投じた市会議員しかり、市長しかり、我々市民の1票の行使で伊予市のかじ取りはできると感じているので、特に市の職員は、そういうところも加味して、政策審議会においてももっと高所に立って、本当に人口を増やしたいのであれば、もっと市民に広く知らせてもらって、そのための審議会を持ってもらえればもっといい意見が出ると思う。この総合計画策定審議会以外でもやはり僕は大事なことは開いてもらって、人口増のためにはどうしようにするか、そして湊町の審議会でもどのようにするかというのをおあわせて検討してもらえれば、もっとよい答えが出てくると感じている。

(委員)

市街化の問題と調整区域について、まだ伊予市は他の地域と比べ努力が足らなかったと思う。城の南というのは一般的に高級住宅街で、伊予市も当然高級住宅街に値する訳であるが、人口増のためには、努力しないといけない。今伊予市では負担は多いけれど受給は少ない。要するに固定資産税はどんどん上がっていくのに、産休手当にしても何でも、伊予市は低いと。そういう問題も順々に見直していかないといけない。浄化槽の問題にしても、今の副市長が、唐川の全戸に合併処理槽をただで設置しても大分安いと言ったが、前の市長は、そうじゃないとやり返した。最終的に一番大きな問題が地下水の問題である。合併処理槽というのは川に流すが、下水は完全に土管の中を流れる。そうすると地下の川がなくなっていく。

逆にその合併処理槽をある程度進めた方が、費用の問題からしてもよい。後で下水に入ったら負担金を払わないといけない。どうせ払うのだったら、合併処理槽を伊予市がただであげたほうが大分安く上がって、受給者もいいのではないかと。新しい家を建てる時は合併処理槽がただで入る。だから、そのほうがいいのではないかと。伊予市の町は他の町と違って、市街化になっても家が建つような状態ではない。だから、今の状態で少し広げるのではなく、目的をしっかりと分けていけば、伊予市は調整区域を解いていくことをやっていくべきだと思う。人口の減少を食い止めるためにも。

(会長)

ほかに重要施策に関する意見はないか。

(委員)

雑件であるが、北山崎の農協跡へできた保健センターについて。近くの人がスポーツダンスをするので使いたいと言ったら、床が傷むから貸せないとされたそうだ。せっかく造ったものは十分に使って、傷むから大事にしな

いといけない、傷めたら上司に怒られるというものではない。床を傷めるならヒールカバーも付ける。もっと自由にできると良いと思う。

傷むと言えば、35年くらい経てばもう老朽化と言っている。愛媛県庁は昭和4年にできたが、いまだに老朽庁舎とは言わない。戦前の方がはるかに技術も遅れているはずなのに、戦後建てた鉄筋が老朽化というのはおかしい。

それから、伊予市の施設はどこに行ってもスリッパに履き替えないといけない。松山で靴を脱ぐ所と言えば畳の部屋だけである。そういう点が、非常に頭が古いというか視野が狭いというか、良いことはどんどん進めていただくようお願いしたい。

(委員)

私もそういう記憶がある。今はなくなった市民会館、以前は4階で結婚式場やいろんな集会をしていた。私が若い頃ダンスをさせてくれと言ったら、当時の市長に床が傷むからやめろと。確かに当時は革靴に金具を使っていたので言われたのだろうと思う。ただ言われるとおりに、今なら革靴ではなくシューズが使われると思う。その辺りを同じように感じているのではないか。

(委員)

男性の場合は鹿革を使う。女性はカバーを付けるものだ。

(委員)

そうだろう。今そのように言えば使えるようになるのではないかと思う。その辺り再度早急に調べていただきたい。

(会長)

以上で当面の重要施策について終わりたい。よろしいか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

(3) 審議会の今後のスケジュールについて

(会長)

次に、審議会の今後のスケジュールについて説明を求める。

(事務局)

市長公約に係る取り組み、また重要施策の推進に係る取り組みについて、数多くの意見をいただき感謝する。委員がおっしゃるとおり重複した内容もあったかと思う。この件については、市長が伊予市の抱える重要施策に早急に取り組まなければならないということで、総合計画の各項目の審議に先立って委員から意見をいただいたということである。早急に取りまとめの上、プロジェクト会議への反映あるいは市長への提言、報告を行い、可能なものは各所管部署で対応していく所存であるので了承いただきたい。

それでは今後の運営スケジュールについて説明する。今まで4回にわたり、市長公約の検証また重要施策に関する意見交換をお願いしてきた。今後はアンケート調査の概要の協議、また第1次計画の実績等について意見交換を経て、早い段階で総合計画の総論や分野ごとの素案を提示し、項目ごとに意見をいただきたいと思う。また必要に応じてシンポジウムやワークショップ

プなど取り入れたいと思う。

アンケート調査の実施について、アウトラインを資料で配布している。

市民アンケートは市民を対象とし、市政全般に対する意識や満足度の調査を行い、総合計画策定の基礎資料としたい。調査対象は1,500から2,000人程度、必要経費は6月定例市議会に予算計上する予定であるので、調査期間は7月中旬から月末ぐらいを想定している。

子育て支援に関するアンケートについては、先ほども委員さんから意見をいただいた。過疎化、少子・高齢化が急速に進行する伊予市にとって子育て支援は非常に重要な取り組みであることから、子育てに携わる女性を対象にアンケート調査を実施してはどうかと考えている。伊予市では、現在子ども・子育て会議という審議会を設置しており、子ども・子育て支援事業計画に関する審議を行っているため、内容が重複しないよう、教育や医療等も含めた幅広い支援策に関する調査を想定している。

どちらのアンケート調査についても、次回の審議会までに調査内容の素案を作成し、意見をいただきたいと考えている。

(委員)

アンケート調査の具申について説明いただいた。その中で子育て支援に関するアンケート調査というのがある。この本会以外にも審議会があるのであれば、そちらに任せたらよいのではないかと。先ほども重複しないようにとあったとおり、わざわざこの審議会に持ってくる必要はないのではないかと。

(会長)

この件について、皆さんいかがだろうか。

(委員)

確かに子育て会議はあるけれど、総合計画を立案する上での最重要項目でもあると思う。したがって重複があれば子育て会議との調整も必要になると思う。

子育て支援に関するアンケート調査については、特に若い女性の意見を受け止めなければいけない。子育ての終わった女性から見れば、何をそんな甘えたことを、という意見も出てくると思う。例えば、今子供を育てている女性の一番の悩みはPTAと聞く。PTAの役員にどうやってならないで済ませられるかが最大のテーマだそうだ。日本中で見るとPTAを止めた自治体もある。止めても地域の住民がその学校を守っていく発想があれば、子育て中の女性に過重な負担をかけなくても済む。要はくじ引きをして嫌になるという形のPTAや保護者会ではなく、参加意欲のある方が手を挙げて参加できるシステムであればいいわけだろう。そういうまちなら喜んで住んでいただけるのではないかと。そういった世代間や男女の意識の差により甘えた話もいっぱい出てくるとは思うが、可能な限り受け止めるという発想で調査していただきたい。

アンケートだけではない。市長が市政懇談会等をされているけれど、おじさんが多く来る懇談会をやっても私は無益だと思う。市長や子育て支援課が

じかに若い女性がいるところ、例えば保育園に行って、何がこのまちに欠けていると思うか、口頭で調査をしていくべきだと思う。

総合計画における子育て支援の意義を考えれば、重複を恐れず、キャッチボールもしながらやっていただきたいと思う。

(委員)

アンケートの調査対象は、子育てに携わっている人だけではなく、経験者やおじいさん・おばあさんの意見も聞くべきではないか。女性だけでなく、今やイクメンの方もいる。調査対象として携わっている女性だけというのではなく、経験者の意見も聞くべきだと思う。

(委員)

私も賛同する。私も子育てのときには、親に聞いたこともあった。近所のじいちゃん、ばあちゃんには我が親以上に見守ってもらったというのもある。アンケートとしては非常に参考になるのではないか。

(委員)

例えば物事の平均値を取ると、何でもないような数字が出てくるのがよくある。要するに若い女性たち、若い夫婦たちにこの伊予市を選んでいただくためには何が重要かという問題意識の中でアンケートを取っていただきたいということである。確かに対象を広くしても、年齢や性別からピックアップは可能であるのだが、そのピックアップしたところに最も光を当てていただきたいと思う。

伊予市は選挙区が4区になった。一部の方は非常に苦い顔をされたようだが、インターもあり、南予地域にもつながっている。昔から南予出身の方が中予地域に出てきているとも聞く。その居を構える一つの候補地として伊予市が位置付けられれば活力も維持できるのではないか。

もう一つ。選挙では高齢者は1票を投じる。だから政治家は高齢者の方を向く。若者は1票投じないからそちらは向かない。でも若い方は住む自治体を選ぶことができる。既得権益のない高齢者はもう選べないが、若者は選ぶという1票を行使できる。そう意味でも若い方の意見をとにかく聞く。わがままだと思ふ意見をとにかく受け止めてみる。そこから総合計画をスタートさせるべきだと思う。

(委員)

今の意見にすごく賛成である。私は子育ての支援のボランティアをしている。保育所入園前のお母さんや妊婦さんの多くは、子育てについて悩んでいる。その人たちの意見はとても重要だと思うので、この調査対象には是非入れてもらいたいと思う。

(委員)

今若い人たちが経済的に割と苦しくて親世代に頼っている状況がある。調査範囲を広げると分かりづらいということはあるが、例えば親が伊予市に住んでいて帰りたいけど帰れない、何か補助があれば帰ってこようかなとか、同居しても良いかなとか、そういう状況の方もいると思う。だから子育てし

ている人だけではなく、若い夫婦の親の意見も聞いてもらい、こうしたら子どもたちも帰れるのに、という意見もあると思う。その方もできれば入れていただきたい。子育てを終わってからでない気付かないこともたくさんある。やはりもう少し範囲を広げていただきたいと思う。

(委員)

女性の意見は本当に目からうろこが落ちる。私も孫が大阪におり、私の嫁は毎月“孫守”に行っている。今の意見は本当に良い内容だったので、50代、60代の方の意見も入れてやっていただきたいと思う。

もう一つ、前者のアンケートは1,500人から2,000人を無作為に抽出するとある。子育てのアンケートは、子育て支援でも別にされていると聞いているのだが、何人くらいを対象にされるのか。今言われたように、未就学児の保護者の皆さん、そして今言われた妊婦さん、50、60代のおばあちゃん、現役世代を越してほっとしたという人も入れると何人くらいになるのか。

それから先日新市長の下で市民アンケートをされていた。聞くところによると3割しか答えが返ってこなかったという。それも踏まえて、何人に出してどれだけ返るかパーセントに出せるのかどうか。3割しか回答がないというのでは情けない。アンケートを取る以上、出す側も真摯に考えないといけないうし、市民も考えて書いていただかないと、なしのつぶてになる可能性もなくはない。その点も是非考えて実施をしていただきたい。

(委員)

アンケート調査が重要なことはよく分かった。繰り返しになるのだが、子育て支援の審議会でもアンケート調査をする、重複しないようにこの審議会でもアンケート調査をする。今委員がおっしゃったように、とあるアンケート調査の返答率が3割であったと。そうすると、子育て支援アンケート対象者に重複して、もう一方の審議会からもアンケート調査が行くとすると、さらに返答率が下がる気がする。それならば、この審議会でも子育て支援が重要だというのなら、向こうの審議会に引き上げてもらい、こっち一本化した調査をするべきではないか。

(会長)

そういうことは可能か。

(事務局)

子ども・子育て会議でアンケート調査を行っているかどうか、内容についても把握していないので、子育て支援課にどのように市民の意見を反映させていくのか確認をする。

アンケート調査の方法については、この市民アンケート1,500人と同じ方にセットで送付するやり方もあるし、2本目を完全に分けて、対象者を例えば妊婦さんから中学生ぐらいまでの保護者とするのか、子育てを終わられた方も含めてやるのか、いろいろなパターンがあろうかと思うが、できるだけ幅広い方のご意見を反映できるようにして決めるやり方もある。その点に関しては子育て支援課の方法も確認して、早急に調整を取り、委員の皆さんに

お知らせしたいと思う。

(会長)

アンケート調査は一般を対象にしてのアンケートと子育て支援に関するアンケート、中身については子育て支援課と重複しないやり方になるとおもうのだが、この2本立てでいくという進め方でよろしいか。

(事務局)

補足する。議論になっている子育て支援に関するアンケート、子育て支援課でアンケートを取っているかどうか確認は取れていないのだが、もし取っていないければ総合計画策定審議会でも案が出ているということで協議をし、内容も協議をした上でアンケートを取る。本審議会ではもう一本にターゲットを絞って調査を行うという調整をしたい。重複しないというのはそういう回答である。その一本化したアンケート結果を土台にどちらの会議でも議論をしていく形を取りたいと考えている。

(委員)

今の内容で結構だ。私は幾つか審議会に出させていただいたのだが、賛成するために充て職の方が集められた審議会も中にはある。この審議会はいろんな意見が出て、形の良い審議会だと思うのだが、他市の議会とか行政の事例を参考にしてとなると、平均的な話にしかならない。私が声を大にして言いたいのは、他市よりも図抜けて子育て支援ができるまちにしたいという意味で提案をしているので、その子育て審議会の様子が分からないまま発言しているけれど、今の形でされることについては賛成したい。

子育て支援課の課長は保育園の園長もしていた方で、非常にやる気もおありのようである。頑張っていたきたいと思う。

(委員)

これは言っていないかどうか分からないのだが、うちでも小学校、中学校といろんなところからアンケートを持ち帰るのだが、文章のくだりが割と分かりにくい。分かりやすく答えられるようなアンケートにしてもらえると、答える側も助かると思う。

(会長)

アンケート内容は、次回皆さんにお諮りするようにする。

(委員)

アンケートを処理する担当課は別々ということか。もう一点、アンケート調査は内部処理か、外部委託か。

(事務局)

それぞれの部署で審議会を持っており別である。アンケート処理は内部である。

(委員)

アンケートを出すときには、統計処理するときには調査結果をどう分析するかきちっと想定をした上でしないと大変である。一本化したいということであるが、そういう旨を踏まえてやっていただきたい。私も現職のときにアン

ケートをやったのだが、頂いた回答の分析の数値がなかなかできなくて苦労したことがあるので。

(会長)

ここで5分間、休憩とする。

午後3時35分 休憩

午後3時40分 再開

(会長)

引き続き審議会を始める。

委員から審議会に関する進め方の提案書を作っていた。その説明をお願いします。

(委員作成資料配布を基にした説明)

(委員)

今日が4回目の審議会になる。本来話すべき基本構想や基本計画といった議論の前に話し合うことが多く、本論に入っていない気がしたので、こういう工程で進めてはどうかという提案書を作ってきたので説明する。

工程は、1. 審議会の進め方、工程表作成の必要性、2. ワークショップによる審議、3. 市民参加、4. まとめという構成である。

まず1番目、これは復習になるのだが、審議会の位置付けを表している。策定審議会は市長の諮問を受けて審議をし、後に答申をする格好になっている。途中伊予市政策推進プロジェクト会議の意見を聞きながらの進行となる。そのほか市民参加としてパブリックコメント、市民アンケート、各種懇談会からの意見を想定している。総合計画策定審議会は計24回ある。私が主張したいのはここであり、5回までを準備計画期とし、最後の5回を取りまとめ編集期、その間の14回を各分野における意見収集と仮定した。

以前委員から課題分析、現状把握等々といった意見があったのだが、今回は外部のコンサルタントに委託をしていない。第1次総合計画の本論にある課題という項目があり、これを読めば大体把握できるので、今回はこれを使用したいと思う。

次のページの基本方針の設定と取りまとめ、これが本来この審議会で審議すべき内容となっている。左側が基本構想、右側が基本計画である。これは第1次総合計画から抜粋した。おおむねこういう内容である。第2回審議会でこの項目に従って審議を進めるという回答も得られたと思う。

一般的な審議会では、ケース1のアウトソーシングとあるとおり、外部のシンクタンクやコンサルタントなどに委託し、資料づくりから議事録作成まで委託という形を取る方法が通常である。しかし当審議会はケース2、現状では外部委託をしていない。しかも並行して伊予市政策推進プロジェクト会議というのがあり、その意見を聞きながらの進行となっている。今日中間報告があったけれど、また次回出てくると思う。

現状では、利点・欠点と赤と水色のペイントで示しているとおおり、外部委託であれば専門家の意見を分かりやすい資料としてまとめることが可能で

あるのだが、この審議会は各委員の意見に依存することが多い。しかも本審議会は17人の構成であるが、1人が発言するとほかの16人が聞き役に回る。多くの意見が集められないという欠点があると思う。結論としては、第2回審議会で提案のあったワークショップ形式による進め方が良いと考えている。ワークショップは10年、15年も前からいろんな分野で進められているのでご存じの方も多と思うのだが、多様で多数の意見を集めやすいほか、発言者がいても同時に意見を述べやすく、事務局に至っては録音データからの議事録作成業務が軽減されるというメリットがある。今のままでは多くの意見、多様な意見を集めにくいというのがマイナス面であり、私が一番問題とされているところである。審議会でも一般市民からの募集によるワークショップを提案されていたけれど、予算面からも難しいということでこの審議会メンバーでのワークショップを提案したわけである。

意見の集め方の事例1としては、いろんな意見をランダムに集めて、左の青い枠の中に附箋を張り出していく。その後グループごとにまとめて右の枠の中に項目ごとにまとめるという方法である。事例2としては、基本計画基本構想の中のさらに小さい項目があるのだが、この項目ごとに意見を出してまとめるという方法である。項目数で言うと基本構想が3項目、基本計画が8項目あり、合わせて11項目、これを1か月に1項目ずつ審議し、約1年間でまとめられるのではないかと考えている。どちらかというランダムな意見をまとめるという事例1より、この事例2の方が良いのではないかと考えている。

次に基本構想の中のコンセプトづくりの事例を提案する。これは愛媛県内にある各市の基本理念や将来像を書き出している。具体的に言うと、松山市、今治市、新居浜市、西条市、大洲市の事例である。

次の提案、これがちょっとみそであり、総合計画策定審議会計24回はそのまま進めるとして、同時に「伊予市の未来予想図の募集」というのをやってほしいと考えている。絵の得意な人、俳句の得意な方、写真がうまい人、作文、コメント、動画、俳句・・・表現方法はさまざま良いのだが、これらを市民から募集し、第2次総合計画を発行する際に、例えば挿絵として利用するほか、こういう市民の意見があるという未来予想図の例を設けるページをつくってはどうかという提案である。そこには中山の誰それが撮った写真という注釈を入れる想定である。小・中学生へ伊予市の未来予想図という作文募集するのもいいし、伊予市内にある写真クラブに投稿をお願いするのもいいと思う。

次にワークショップによる審議の事例を紹介する。示しているとおり自由闊達な意見が出しやすい仕掛けをつくって審議をしていただくということである。前回、一般市民を巻き込んだワークショップは失敗すると私言ったと思うのだが、その大失敗の事例が右下の写真である。右の方におばちゃん3人が座っているのだが、この3人にしか来てもらえなかった。これは14、5円前に高知県でやったワークショップである。発注者から動員をすべきで

ないという指示があり、そのとおりにしたところ3人しか集まらなかった。

次の事例はイラストである。ここには広報紙などにあったイラストの切り貼りをしているのだが、こういうイラストの募集もあると思う。例えば花時計のある公園が欲しいと希望した場合には、絵の得意な方の絵を使うとか。そういう絵の表現も良いと思う。市民からは写真の投稿も受け付け、その写真を総合計画の冊子の中に挿絵として入れる。レンゲ畑とか佐礼谷地区とかのコメントの横に誰それ撮影というコメントを添えてはどうかと思う。事例に挙げているのは先月あった佐礼谷地区のつるし雛展なのだが、写真や俳句、作文という以外にも、伊予市を売り込むとパートタイムなものを持たれていると思う。この手法もおもしろいと思う。

動画についても説明したい。最近になって埼玉県 of 県知事や西予市など、AKB48の恋するフォーチュンクッキーという歌に合わせて踊るアピールがユーチューブに載っている。結構なアクセス数である。今から伊予市が始めても遅いとは思いますが、そういう動画をユーチューブに載せることでまちのアピールができると思う。市民が携帯電話やスマートフォン、デジカメやビデオカメラなどを使って撮った動画を伊予市へ投稿して、伊予市のホームページとリンクさせてアピールすると、そういうことはできないかなと思っている。ここである結婚式で流されたDVDを再生する。登場人物は全員伊予市の方あるいは伊予市出身の方である。出演者には一切承諾を得ていないので、その辺りはご了承いただきたい。全てデジカメや携帯の動画機能を使って集めたデータで構成している。

(DVD再生)

ご覧になって分かるように、画用紙にお祝いコメントを書いて紹介し、次に手渡す、手渡された方がコメントし次に手渡す・・・と次々に手渡しているように見えるのだが、実際には全然違う場所で撮ったものを編集でつないでいる。こういったもので伊予市をアピールする映像が作れないかなと思っている。

提案のまとめとして、1番目、これまでなかった工程表の作成により審議を行うこと、2番目、審議会をワークショップ形式で進めるという提案、3番目、イラスト、写真等々で市民参加を募るとのこと。これが私の提案であり、意見をお願いしたい。

(会長)

審議会について提案を頂いた。何か意見はないだろうか。

(委員)

最後の動画はものすごくいいと思う。私は2年ぐらい前に伊予市で竜巻と空の虹(水平アーク)の写真や動画を撮って、愛媛新聞やヤフーに取り上げてもらった。そのとき即日5、6万アクセスあったと思うのだが、愛媛ではなく伊予市であるとホームページに載せていた。そうすると問い合わせがものすごく、伊予市ってどこにあるのかというのもあった。最後の動画はとても良い例であり、そういう動画や画像を有効に生かしていければ良いと思

った。

(委員)

4月に伊予市健康づくりの会のウォーキング大会がありお寺めぐりをしていた。その時にも太陽の周りに虹が出ているのを初めてみたのだが、そういう現象もあるのか。ちょっと怖い雰囲気があり、写真を撮っていいものかどうか迷ったのだが。

(委員)

昨年私が確認しただけでも4回は見ている。伊予市はそういう気象現象も豊富であり、伊予市ならではのというものもある。そういうのも生かしていければいいなと思う。

(委員)

スケジュールに関して本質的な提案をしていただいた。やっとならからようやく議論ができるという気持ちが起こって、すごくうれしい。

今の説明であった審議方法に関する企画書にあるとおり、できれば有識者にかかわってもらおうということ。私が前回、前々回話した際、有識者とワークショップをごっちゃに話したので混乱して受けとめられてないか心配している。前回提案した方(山崎亮氏)は、有識者であり、ファシリテーターでもある人です。提案を全部足し合わせてまとめ上げるようなアウトソーシングではいけない。当然現状のままでは意見も広がらないし深まらない、これではまずい。ワークショップは委員の提案とほぼ同じで、ある程度枠組みができた後、項目の部分・部分を広く一般の人から思いつきでいいので、ぽっと言ってもらう場が欲しいと思っており、今年の秋くらいから始めるイメージを持っていた。

委員の提案においても、誰が議事運営を行うかというのが非常に重要なファクターになると思う。この間私が推薦した方は、有識者であってワークショップのファシリテーターもされる方である。ファシリテーター・ファシリテートという言葉は少しずつ使われてきてはいるけれどもまだまだ本当の意味は浸透していない。例えば前回無農薬の農業の話をしたら、いろんな意見が出た。でも意見が出ただけで終わった。その前の審議会でも小さな公園があれば子育ての役にも立つし、コミュニティもつくれるという話も出たけれど、それで終わり。多少この場でキャッチボールはされているけれど、どちらかというとドッジボールみたい。

うまいファシリテーターは、いろんな意見が出たときに意見の重さを一瞬にして量っている。これは可能性があるとか、磨けば光るとか、広がりがあるあるいは深みがあるとか、その場で判断してほかに意見はないかと。このようにして、意見を掘り下げたり、たくさん出た意見をつなぎとめて何か有機的なつながりを見せたりしている。これは1つの技術です。専門家が自分の意見を言って、自分で計画をつくって、たたき台の資料をつくるのとは全然違う。我々の意見をうまく引き出す、縁の下の力持ちをやる人、それがファシリテーターである。今のままでは、例えは悪いけれど意見を葉っぱに例

えると、今回はこの意見を言ってくださいと葉っぱを地面にばらまく感じ。通常のやり方では、地面にばらまかれたばらばらの葉っぱの状態で見集約が終わってしまうことが予測される。しかしうまいファシリテーターが入ると、意見の分析をして、そこに枝を付けて幹を付けて、一本の木のようなところに意見が張り付いている状態に作り上げる。そうすると伊予市のコンセプトや方向性が見えてくる。それを即興的に組み立てることができる。したがって、私が言っていたのは委員の提案の中のケース1とは全然違うパターンになる。費用は別途生じるけれど、アウトソーシングパターンよりは安くいけると思う。

それから、委員の資料はすごくきれいに作ってあり、これなら読みたいなと思う。さっきのアンケートの意見ともかぶるのだが、残念ながら市役所からもらった表と文字だと、なかなか読むのはしんどいなという印象を与えてしまう。そういう意味でも、先ほどビデオの話も出たけれど、総合計画という敷居の高い範囲をもう少し軽く見せて、ビジュアルを美しく仕上げるのも重要な要素の一つになる。特に市民から募集を募りワークショップをする場合は、見せ方はすごく大事なことだと思う。

(委員)

非常にすばらしい研究をして発表していただけてありがたく思う。コンセプトの事例で、各市の基本理念と将来像を見ると、伊予市の総合計画のそれは非常に字数が多い。市民にとっていつでも伊予市の基本姿勢が分かり、浸透していく題にしたらいと思う。例えば「自立、共生、協働、交流のまちづくり」と1列のテーマにしたらみんながよく分かるし、対外的にも知れ渡りやすいと思う。

1次の審議のときにも私はタッチしていたのだが、当日になって資料を出され、市の職員がたっと読んで、さあ意見はありませんかと…私ら出席していても読んでいる間に終わってしまった。意見を出す間もなく、ここの文面をどうするか、表現をどうするかと、そういう文字の検収だけさっさと進んでいった実情がある。あのとき具体的な面では双海のものが良かった。言葉も簡単で、住民が読んだらすぐ分かる表現だった。抽象的表現で、どのようにも解釈できるような表現では、誰かが言ったように必要ないとなってしまうのではないか。

(委員)

質問である。審議会をワークショップ形式で進める場合、現状の審議会を班分けしてテーブルごとに分けるとか、そういう意味でよろしいか。

その場合、例えば1時間なら1時間各テーブルで同じテーマを話し合い、テーブルごとの意見を全体会で集約するという感じでよろしいか。

(委員)

補足説明をする。この会、委員が17人いるので4グループぐらいに分ける。例えば会場に入るときにくじ引きをし、何番テーブルへ行ってくださいという指示に従って着席をする。そこに大きな紙と付箋紙が用意してあり、各委員

に今日はこういったテーマで意見を出してくださいという、司会者の誘導に従って付箋紙に意見を書いていく。もちろん口頭でも良い。ただし1人何分以内という条件を付けて各委員の意見を出してもらう。意見もばらばらに出すのではなく、Aさんの次にBさん、Bさんの次にCさんと順番に。私意見がないのでパスしますというのもオーケーである。それを何回か繰り返して班の意見をランダムに集める。集めた後項目ごとにまとめて、例えば大きなマジックを使って項目ごとに、これは福祉の問題だと丸でくくっていく。そうやってワークショップの終了時に各班で決めた代表者が発表する。

先ほどファシリテートのことを話していただいたのだが、私は有能な方が集まっている審議会だと思っているので、ファシリテーターは必要なく、各委員の貴重な意見を出していただき、まとめていくことの方を尊重したいと思う。

先ほども触れたのだが、私この会で2時間の間に2回しか話をしていない。2つの意見しか話していないので、もっと多く意見を出せる機会をつくってはどうかというのが提案である。

(委員)

よく分かった。それでこの3番目の写真、俳句など市民参加を募るとするのは、どの段階の話なのか。今からでも並行して募っていくのか、最終的に編集したときにビジュアル化する話なのか、ちょっとよく分からない。

(委員)

これは市役所内部でも各課にわたりお願いすべき問題だと思っている。例えば小学生に伊予市の未来予想図を原稿用紙1枚に書いてもらうとか、伊予市内のクラブは知らないのだが、写真クラブとか俳句会とか、そういった会があるのなら、会に投げかけて写真なり作品などを提供いただく。その作品はデータで保存しておき、後に総合計画の冊子の中に挿絵として使うということである。準備期間が数カ月必要だろうと思うので、印刷会社に編集を渡すまでの間にデータを集めるのが良いのではないかと思う。

(委員)

写真は分かる。動画が入るとなると、要するにパソコン内部に総合計画があり、そのビジュアルも含めた全体としての総合計画ができるのかどうか。

(委員)

動画はいろんなことが使えると思う。例えば伊予市のホームページにユーチューブにアクセスできるボタンをつくり、市民から集めた動画を編集したものが見えるようにしておくとか、成人式のときに私の未来予想図という動画を集めておいて、会が始まるまでずっと流しておくとか、投稿された動画によってさまざまな利用方法が考えられると思う。

冊子の中に動画を入れるということはもちろん無理だし、これにDVDを挟んでおいて、どうぞ見てくださいというのも使い方が違う。動画はインターネットを通じてボタンを押せば見えるよという形で良いと思う。これは総合計画策定審議会とはちょっと違い、伊予市のイメージアップのための戦略

である。

…今事務局に聞いたのだが、伊予市のホームページにユーチューブは既にある。多分簡単にできると思う。

(委員)

動画は一つのツールとして、表現ツールであったり意見収集のツールではあるが、ちょっとここで議論する内容ではないと思う。先ほどのワークショップ、私も20人くらいを4班に分けてワークショップをした場に参加したこともあるのだが、人数が少な過ぎるとかえって意見が出せない。

今の会議のようなスタイルでは1人しか意見は言えないのだが、誰かが話したことをヒントにして自分の意見が思い出したように出てくるとい、そういう対話、キャッチボールができるのが一つの利点である。

ワークショップの不利点は、意見を言ってキャッチボールがない。書いたり貼ったりと結構作業に手間がかかるので、一つのテーマで2時間くらいかかってしまう。作業が面倒くさい。そういうことを考えると、20人以下なら直接話し合った方が良いというのが私の意見である。かえってその方が早いし、いろんな意見が出せるし、キャッチボールができる。

市民から意見を取るにしても、一方通行で意見を取るのであればアンケートで済む。ワークショップをするというのは、50人以上の大人数で、しかも不特定多数の人間がぼっと参加し、そこでテーマを絞っていろんな意見をすい集めるから、有効に働くのではないか。その時もファシリテーターが今日はこのテーマで話をしてくださいと言われると議論は深まらない。だから臨機応変に話題を変えたり、テーマを深めたりする柔軟性が必要になると思う。一人一人優秀な経験者が集まっても、やはり司会進行の技術は欠かせないものだと、私は考える。

(会長)

ほかの方の意見もいただきたいと思う。

(委員)

まず費用が要するという問題で、すぐにそれができるのか、それとも予算組みをしないとだめなのか事務局に確認しないといけない。いいと言っても費用が出ないとポケットマネーでやってくれとはならないだろう。有料の司会者を呼べるかどうか教えてほしい。

(事務局)

この場でそういう決定を頂けるのであれば、補正予算を組んだ対応はしたいと考えている。基本議会で可決していくので、直近であれば6月の議会になる。6月議会で通れば、7月からの対応となる。

(委員)

そのことだ。言うように次の機会からできるのならいいが、今日決まってもそれまで待たないといけない。

(委員)

費用はどれくらいかかるのか。

(会長)

人によるだろう。

(事務局)

未来づくり戦略室にも予算はあるので、すぐに必要ということであれば、予算を流用しても講師謝礼のお金を集めて対応はしたいと思う。ただ限られた予算であるので、何回も謝礼を払わないといけなくなると、補正予算を組みながらの対応となると思う。次回は無理だとしても、その次の回から対応しなさいということであれば対応はしたいと思う。ただその有能なファシリテーターを探さないといけない。

(委員)

前回提案した方は近い知り合いなので何とかかなりそうではあるが、超売れっ子で全国を駆け回っており、つかまるかどうか、費用がいくらかどうかはできれば確認したいと思う。秋にもう少し枠を広げて一般の市民が入ってやるのであれば、必ずファシリテートが必要になると思う。それまでの間、現状における課題の把握や第1次総合計画を参照とした先ほどの提案の部分で、ファシリテーターを入れてやっていくのか、今の議事運営の方法でやるのか、あるいは別の方法があるのか、いろんな考えができると思う。

ただやるとなると、三鷹市でも岡崎市でもワークショップを20回くらいやって、初めてやったという達成感になると思う。最低でも10数回は必要だと思う。1回講演してもらうのとは費用がかなり違ってくと思う。それが現実的なのかどうかは、今の状況では分からない。ただStudio-Lはスタッフが代わりに来ることも可能である。

(会長)

1回来てもらうのに、旅費と講師料でおおむねいくら必要なのか。

(委員)

前回の審議会では猛反対があったので、聞いていない。可能性があるのであればちょっと聞いてみる。

(委員)

ちょっと割り入るようで申しわけないのだが、伊予市としての態度を鮮明にしてほしい。基本計画の内容は委員がいろいろ考えていくことだろうけれど、物事の進行は市がやることであり、きちんとある予算の中ですることだと思う。そういう必要があるのかどうなのか、はっきりしていただきたい。正直私も予算の内容は良く分からない。だから知っている人の意見に巻かれてしまうのだが、その面において、市は慎重にやってほしいと思う。

(会長)

事務局、どうだろう。

(委員)

前回の審議会でも先ほどの件についてはかなり論議をした。市民を巻き込んだワークショップはどうかという話もあったと思う。今回アンケートをする、しかも2つのアンケートをしないといけない。そこにワークショップを

複数回するのか、あるいは前回提案のあったシンポジウムのような形で、1回で済ませるのかということもある。その辺り担当課がどう進めたらいいのか、担当課の考えも聞きたい。

(委員)

市への質問が2つ続いているのだが、私も一つ。先ほどの工程案において、現状における課題の把握については、第1次総合計画に課題が出ているから分析は要らないと判断されると委員提案の中で述べられていた。しかし、この課題について成功しているのか失敗しているのか、あるいはどの程度市に対してバックがあったのか、効果があったのか、その辺の検証（バックデータ）が一番重要だと思う。第1回審議会でもバックデータがないから出してほしいという、委員の意見もあった。もしちゃんとバックデータが取れていないのであれば、これはアウトソーシングでいいと思うのだが、できれば愛媛大学とか第三者がきっちり調べた上で次のステップに進むのはどうだろうか。そういう質問である。

(事務局)

現状における課題把握は各課に投げかけており、現在集約中である。検証データが揃った段階でお示しできると思う。

予算については、言い訳で申しわけないのだが、未来づくり戦略室は今回新しくできたところで、予算は間に合わせ程度である。今のところ現行の予算内で流用しながら頑張るしかない。

またファシリテーターに10数回来ていただいて進めるのが良いのか、市民を集めたワークショップのときに来ていただくやり方がいいのか、経費も含めて内部で検討させていただければと考えている。

(委員)

一番大事なこういう議論が毎回こういう繰り返しになる。第1回の審議会ですら私が事務局に対して、1次計画の実績の検証、いわゆる効果や課題、現状、そこら辺りどうですかと聞いた。その中で1次計画は外部委託をして冊子を作ったかどうか聞いた。そこで外部委託をしていないと言われたので、私は、事務局サイド、それから会長、副会長を中心とした17人の委員で物事を進めるものと理解して4回参加している。これが一番大事なことである。今日やっとスケジュール表が出てきた。これが第1回のとくにきちっと報告してもらえれば、今日の提案で言われることも出てこなかったと思う。

外部委託をしないから、全員がいろんな角度から意見を出して審議をする。審議委員なので、審議会には審議する課題を全部テーブルに出して同じ共通認識で議論をする。その都度結論を出して事務局サイドがまとめる。その方向で進めると思っていた。それが新しく機構改革をされて全員が代わり、これは弱った、大変だぞと思っている。今までの4回も踏襲しつつ、できれば私は提案にあったように取りまとめができる方に外部委託をすれば、非常に多岐にわたり議論ができると思う。当然予算が許せる範囲の中で進めなければいけないので、結局は事務局がとりまとめその他対応をしていただ

き、会長、副会長とも事前に十分議論された上で審議会を開く。そしてキャッチボールしながら前に向いて進まないといけないだろうと思う。

(委員)

私は本日の委員提案をベースに考えていたのだが、ファシリテーターの案も非常に魅力ある提案である。可能であればそうすべきなのだろうが、物理的制約はあると思う。

例えば項目を絞って、1つでも2つでもそういうことができたなら、今までのものとは違うものができるのではないかと思う。そこらは実現可能性を考えた上でやってみたらおもしろいと思う。

それから、事務局案がばんと出てくる方がやりやすいのだろうけれど、ある意味委員にバトンを持たせていただいたという意味合いではありがたい話だなと思う。折衷案的ではあるけれど、工程表を見ながらどれかの問題でそういう話をするという形にして、一歩踏み込めばおもしろいと思う。一つの分野でおもしろかったなというのであれば、その他の分野でもやり方は決まってくるのではないかと。そういう部分的にやるというのはどうだろうか。

(委員)

今の意見と同じである。大事なところで1、2回、中間辺りで一度話をしてもらって、それが良いならシメにもう一度、2回くらいあればいいのではないか。それが最低の場合であっても、言われるように面白いものができ上がるかもしれない。それくらいなら予算も許せる範囲ではないか。

予算については聞いてもらわないといけないのだが、市でも調べてもらっていけそうというのならやってもらえればいいのではないか。

(委員)

私はこの会が将来の伊予市を担っている気がしてすごく怖い。私たちだけである程度決まってしまう審議会だろう。予算もあるとは思っただけで、できるだけ手を尽くしてみんなの知恵を出して、お金もちょっと出していただき、急いで結論を出すというのではなく、最良のやり方でいろいろ話し合いをし、その中で予算が下りればすばいし、なければなりに手を尽くしたと。今決めるのではなく、ある程度資料や材料を集めて、その都度柔軟に対応していけばいいのではないかと思う。

(委員)

ある程度早目に進めないと、今言われる計画は立たないだろう。提案のあった将来ビジョンに持っていくためには、早めに決めないといけない。ファシリテーターの件もそうだ。やるならやる、途中でやるにしても早く決めないと、なし崩しになっては今までの連続になってしまう。

(事務局)

先ほど途中でワークショップを取り入れてファシリテーターの方をというお話があった。今後各項目において皆さんから意見をいただく中で、やはり一番心配というか大事なところは、コンセプト、伊予市の将来像を設定す

るところであると思う。あとの事業については、農林漁業、水産業も当然や
っていかねばならないし、大きく180度変わることはない。ただ重きを
置くところが変わってくるということだろうと思う。その将来像のところ
は、できれば専門の方に入ってもらい、皆さんから意見をいただいてまとめ
上げていけたらと思う。そこは確かに私どもも自信がないところがあり、で
きれば専門の方がいる方が皆さまの意見も取りまとめやすいのではないか
と思う。

その他の各項目については、それぞれの部署からの現状も提示しながら、
皆さんにこちらはもっと重きを置くべきだといった話もいただきたいと思
う。また予算が付くようであれば、そのポイント、ポイントで専門の方にも
入っていただきたいと思う。そういうことを内部で検討し、できれば専門の
方にも協力していただく形で進めさせてもらいたいと思う。いかがだろう
か。

(会長)

事務局はそういう考えのようである。よろしいか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

(会長)

そうすると、次回の話になるのだが、まず1次計画の検証をしないとけ
ないと思う。1次計画どこまでどういうことが進んだのか、できていないの
か、あるいはできているのか。その辺を次回詰める形で進めてはどうかと思
うのだがいかがだろうか。

〔「賛成」と呼ぶ者あり〕

(会長)

それでは、今回は第1次計画の検証をするということで進める。

(4) その他

(会長)

ほかに意見はないか。

(委員)

前回宿題を出していた。湊町の埋立地の件で回答をいただきたいと思っ
ていたのだがどうなのか。プロジェクトでもやっていたのだろう。

(事務局)

埋立地の企業誘致については、中間報告にも上げているとおり、現状は愛
媛県の所有地であり、また地元の埋立地対策委員会とも合意形成を図らな
ければならないということもありません。進まなかったのが現状である。伊予
市の誘致制度も、支援できる業種の幅が非常に狭いとこともあり、早急に地
元や県とも協議し、支援策の拡大また対象業種の拡大については早急に進め
ていきたいと考えている。今年度から未来づくり戦略室と経済雇用戦略課が
企業誘致の担当となった。足並みをそろえて埋立地の企業誘致は今まで以上
に進めたいと思う。

(委員)

回答になっていない。土地が欲しい、買いたいという人がいる。それなのに市は工場じゃないからいけないと言う。今県と協議の上と言われたけれど、県は市に相談しろと言っている。県は市から通ってきてください、こう言っている。市役所に相談に行ったら、それは倉庫業だからダメだと言われた。倉庫業ではない、組立てのある工場である。そういう話もしたはずなのに、どうしてそうなったのかを聞いていた。その答えを持ってきてくれと言っている。市役所はプロジェクトチームまで作っているのだろう。まちの中の空き家を減らすというプロジェクトもあるのだろう。でも実際は民間がやっている。市役所前のマッサージ店から香川銀行跡に入れた喫茶店もみんな民間がやっている。中山の門前の土地でもそうだ。購入の話をしたら坪20何万だという。あんな所を20万円で誰が買うのかと言ったのに、かかった費用がこれだけあるので、その値段だと当然のように言った。私はいつも思うのだが、市役所はやる気あるのか。みんなその調子なのか。

(事務局)

申し訳ない。担当をしていた前課長からその件については話を聞いている。商工観光課でも担当が倉庫という認識をしたのか、お断りをしたということも聞いている。現状の制度ではなかなか対応できないと前担当が言っており、改善ができるのであれば、是非奨励制度も変えていきたいと思う。直接担当者に当時の状況を確認しておく。今回回答にならなくて申し訳ない。

(会長)

次回にはもう少しいい回答を出してもらえるとということで、今日のところはお願いします。その他ないだろうか。

(事務局)

第2回の総合計画審議会の議事録は、以前お送りしてご確認いただいた。修正点がないようであれば、第1回と合わせてホームページに公開したいと思う。また、第3回の審議会の議事録についても先般お送りさせていただいた。お目通しいただき、修正点等あればご連絡いただきたい。決定した後にホームページに公開することとしたい。

(5) 次回の審議会日程について

(会長)

次回の審議会の日程であるが、提案がある。いよいよこれから年間にわたって計画書づくりを始めることになる。市長や副市長も交え、懇親会を開いてはどうかと考えているのだが、いかがだろうか。計画してもよろしいか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

(会長)

それでは次回日程については、市長、副市長の日程もあると思うので、空いた日に合わせて日程を決めたいので、よろしくお願いします。

熱心にご審議をいただき、感謝する。

午後 4 時55分 閉会